

3 ファシリテーターとして主体的に話し合いを展開する力の育成に関する研究

ー遠隔合同授業での話し合い活動を通してー

1 研究の意図

- (1) 研究の背景
- (2) 研究テーマ設定の理由
- (3) 研究の仮説

2 研究の内容

- (1) 本研究におけるファシリテーターに必要な力とは
- (2) ファシリテーター力を育む手立て
 - ア 見通しー実践ー振り返りのサイクル
 - イ ルーブリックによる自己評価
 - ウ 児童にとって自分事となる議題設定
- (3) 授業実践
 - ア 第1回授業実践
 - ア 第1回授業実践の実際
 - a 児童にとって自分事となる動機付けと議題設定
 - b ルーブリックの作成と自己評価
 - c 見通しー実践ー振り返りのサイクル
 - イ 第1回授業実践の結果と考察
 - a 「見通し」をもたせる手立ての不足
 - b 「振り返り」を行う手立ての不足
 - c フォロワーに必要な力への気付き
 - ウ 第2回授業実践に向けて
 - a 「見通し」の充実を図るための工夫
 - b 「振り返り」の充実を図るための工夫
 - c フォロワー力の向上を図るための工夫
 - イ 第2回授業実践
 - ア 第2回授業実践の実際
 - a 児童にとって自分事となる議題設定
 - b 見通しー実践ー振り返りのサイクルの充実
 - (a) 「見通し」の充実を図る工夫の具体
 - (b) 「振り返り」の充実を図る工夫の具体 (第1時)
 - (c) 「振り返り」の充実を図る工夫の具体 (第5時)
 - (d) 「振り返り」の充実を図る工夫の具体 (第7時)
 - イ 第2回授業実践の結果と考察
 - a 「見通し」の充実を図るための工夫による児童の変容
 - b 「振り返り」の充実を図るための工夫による児童の変容
 - c フォロワー力の向上を図るための工夫による児童の変容

3 研究のまとめと今後の課題

- (1) 研究のまとめ
- (2) 今後の課題

光市立塩田小学校

教諭 宮本 亜希子

ファシリテーターとして主体的に話し合いを展開する力の育成に関する研究 －遠隔合同授業での話し合い活動を通して－

光市立塩田小学校 教諭 宮本 亜希子

1 研究の意図

(1) 研究の背景

中央教育審議会答申（令和3年）によると、小規模の学校で児童間の多様な交流が困難な場合等には、「遠隔授業を積極的に活用することにより、児童生徒が多様な意見や考えに触れたり、協働して学習に取り組む機会の充実を図り、また、児童生徒の学習活動の質を高めるとともに、教師の資質向上を図る必要がある」*¹と示されている。

(2) 研究テーマ設定の理由

原籍校は、全校児童15人の複式学級を有する小規模校である。児童数の少なさによる課題を解決するために、令和3年度から同規模の光市立東荷小学校（以下「東荷小」という。）と交流学習（直接合同授業と遠隔合同授業）を行っている。様々な児童と交流する機会が増えたものの、児童が萎縮する場面が見られ、主体的に話し合い、自ら学びを進めていく点において課題が残った。要因として、話し合いの多くが教師主導で行われていたことに加え、児童の話し合いを展開する力を育む活動が不十分であったことが考えられる。

北川は「自律的・主体的に議論に取り組み、互いに考えを深め合える子供たちを育てることは容易ではない。考えを分かりやすく伝える表現力や相手の考えを理解するための聴解力に加えて、話し合いを展開していく力が求められているからである」*²と述べている。

そこで、本研究では、児童が主体的に話し合いを展開する力を育む工夫として、次の2点について実践・検証する。1点目は、児童一人ひとりが話し合いの進行役となるファシリテーターとしての役割を務めるよう設定することである。2点目は、児童が見通しをもって話し合い、その後の振り返りから一層効果的に話し合いを進める方法等に気付き、次の話し合いに生かしていくサイクルを仕組むことである。これらの実践に当たっては、原籍校の児童が普段の授業で活用している学び方ガイドブック「塩田っ子の学び」（図1）を参考にしながら、検証・改善を図っていく。これらの取組により、遠隔合同授業での話し合い活動において、主体的に話し合いを展開する力を育むことができると考える。

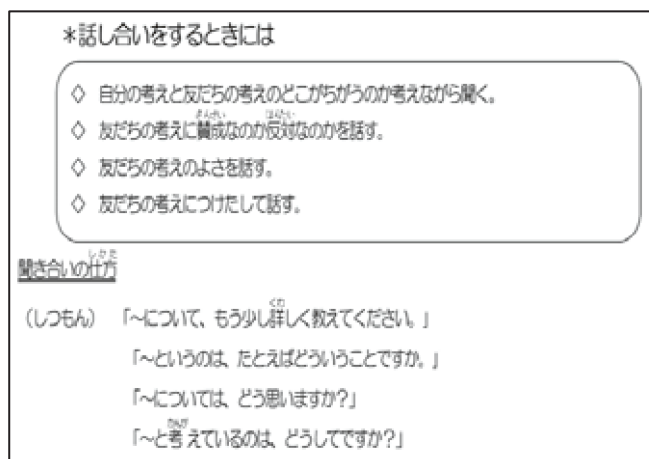


図1 「塩田っ子の学び」（一部抜粋）

(3) 研究の仮説

様々な学校との遠隔合同授業における話し合い活動において、児童がファシリテーターの役割を理解した上で、一人ひとりがファシリテーターとなって話し合い活動を展開することで、児童にファシリテーターに必要な力を育むとともに、主体的に話し合いを展開しようとする意欲や態度を身に付けさせることができる。

2 研究の内容

(1) 本研究におけるファシリテーターに必要な力とは

本研究におけるファシリテーターとは、「問題解決に向け、フォロワー（参加者）の意見を引き出し、考えを整理してまとめる人」とした。また、ファシリテーターに必要な力（以下「ファシリテーター力」という。）として、原籍校の児童の実態も踏まえて、表1に示す四つに整理した。

表1 ファシリテーター力

- | |
|---------------------|
| ① 話合いの進め方の見通しをもつ |
| ② 相手の意見を最後まで聞き、反応する |
| ③ 相手の発言を引き出す |
| ④ 相手への配慮や気配りをする |

(2) ファシリテーター力を育む手立て

児童にファシリテーター力を育むことができるよう、以下の三つの手立てを行った。

ア 見通し－実践－振り返りのサイクル

話合いの目的やゴール、流れといった見通しを児童にもたせてから話合い活動を実践することとした。実践後の振り返りから、話合いの新しいこつと次の話合いに向けた課題の発見につながるサイクルを意識するようにした。また、このサイクルは単元全体及び1時間の授業の一連として行うこととした。

イ ルーブリックによる自己評価

児童にとってめざす指標を明確にし、児童のファシリテーター力向上に向けた意欲を喚起するため、ルーブリックを作成することとした。今回の実践におけるルーブリックはファシリテーター力①～④に対応する4項目について、各項目に4段階のレベル（師匠、達人、修業中、初心者）を設定した。活動後に児童による自己評価を行い、ファシリテーターとしてレベルを上げていこうという意欲の向上や態度の育成につながるようにした。

ウ 児童にとって自分事となる議題設定

これまでの遠隔合同授業での話合いの振り返りから、自分たちで話合いを進める必要性を感じることができるようにした。また、児童にとって身近な議題を設定することで、学習を自分事として捉えられ、主体的に話合い活動ができるようにした。

(3) 授業実践

原籍校5・6年生6人を対象として、2校との遠隔合同授業をZoomを用いて行った。グループによる話合い活動はブレイクアウトルームに分かれて行った。

ア 第1回授業実践

第1回授業実践は東荷小5・6年生5人と、学級活動、国語科及び道徳科の学習を遠隔合同授業で行った（表2）。

表2 第1回授業実践の概要 ※ 2・5・6時間目が合同授業（表中網掛け部分）

時	教科	単元名	主な活動内容
1	学級活動	「上手にコミュニケーションするために」①	動機付け・楽しい話合い
2	学級活動	「上手にコミュニケーションするために」②	動機付け・楽しい話合い
3	学級活動	「上手にコミュニケーションするために」③	ファシリテーター実践
4	国語科	「いちばん大事なものは」①	シミュレーション
5	国語科	「いちばん大事なものは」②	意見交流
6	道徳科	「これって不公平？」	意見交流

(7) 第1回授業実践の実際

a 児童にとって自分事となる動機付けと議題設定

今回の実践が児童にとって自分事となるように、第1時の学級活動では、自分たちで遠隔合同授業での話し合いを進める必要性を感じるための活動を行った。第3時はファシリテーターとして話し合いを展開しようとする動機付けを図るために、児童にファシリテーターがいることのよさを伝えるとともに、一人ひとりがファシリテーターを体験した。

また、第4・5時の国語科「いちばん大事なものは」において、自分の大事なものを伝え合い、考えを広げる活動を行った。さらに、第6時の道徳科では、児童にとって身近な学校生活の四つの場面において、「公平か、不公平か」をテーマに話し合いを行った。

b ルーブリックの作成と自己評価

ルーブリックは図2の手順で作成した。一人ひとりがファシリテーターとなり、話し合いを展開した後、ルーブリックによる自己評価を行った。現段階のファシリテーターのレベルを確認し、更にレベルを上げていこうという意欲の向上につながるようにした。なお、ルーブリックの項目①～④はファシリテーター力①～④に対応する。

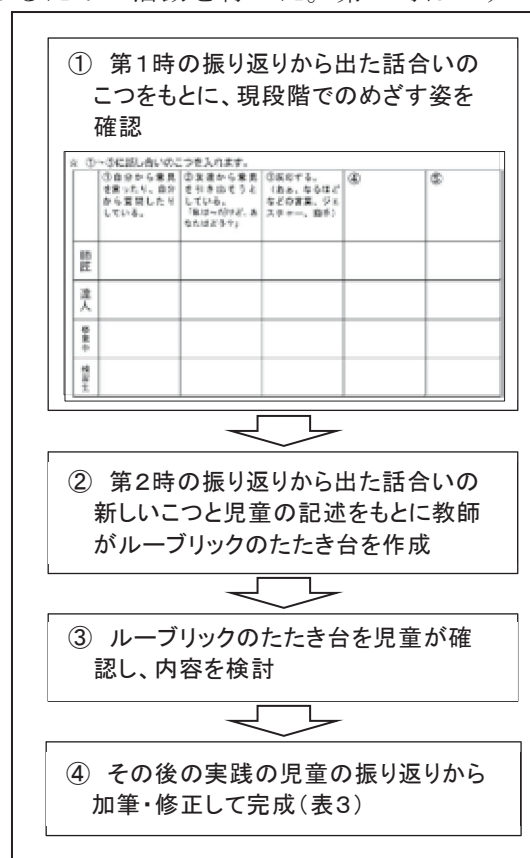


図2 ルーブリック作成手順

表3 ルーブリック (ファシリテーター用)

	① 話し合いの目的やゴール、進め方を確認しながら話し合いを進行している	② 友達の意見を最後まで聞いて、うなずきやつぶやきなどの反応をしている	③ 進んで質問して、理由やくわしい説明や考えなどを引き出そうとしている	④ 発言がなかなかできない友達に優しく声をかけたり、友達全員が発言できるようにしたりするといった気配りをしようとしている
師匠	話し合いの目的やゴール、進め方を確認し、話題がそれないように、時間配分のことも考えて進行している。	友達の意見を最後まで聞き、表情や大きなジェスチャーを意識して、うなずきやつぶやきなどの反応をしている。	友達の様子を見たり、質問の仕方を工夫したりして、友達からくわしい説明などの考えを引き出している。	発言できない友達を優しく励ましたり、友達全員が公平に発言できるように気配ったりしている。
達人	話し合いの目的やゴール、進め方をときどき確認しながら進行している。	友達の意見を最後まで聞き、相手に伝わるようにうなずき、つぶやき、ジェスチャー等をしている。	友達の様子を見て、友達からくわしい説明などの考えを引き出そうとしている。	発言できない友達を優しく励ましたり、友達全員が公平に発言できるようにしたりといった気配りをしようとしている。
修業者	始めに目的や進め方を確認してから進行している。	友達の意見を最後まで聞いて、うなずいたり、ジェスチャーをしたりしている。	なんとなく友達を指名して、考えを引き出そうとしている。	発言できない友達に声をかけようとしているが、友達全員が公平に発言できるように気配ることはむずかしい。
初心者	話し合いの目的や進め方は意識せずに、話し合いを進行している。	友達の意見を最後まで聞いているが反応をしていない。	友達から考えを引き出そうという意識はあるが、なかなか友達を指名できない。	発言できない友達への声かけや友達全員が公平に発言できるように気配ることはむずかしい。

c 見通しー実践ー振り返りのサイクル

各時間において、見通しー実践ー振り返りという一連のサイクルで学習に取り組んだ。話し合いの新しいコツ（図3）を導き出すことや現段階での話し合いの課題を見付けるために振り返りの充実を図った。第4時は、ファシリテーターとして見通しをもって話し合いを進行することができるためのシミュレーションを行った。

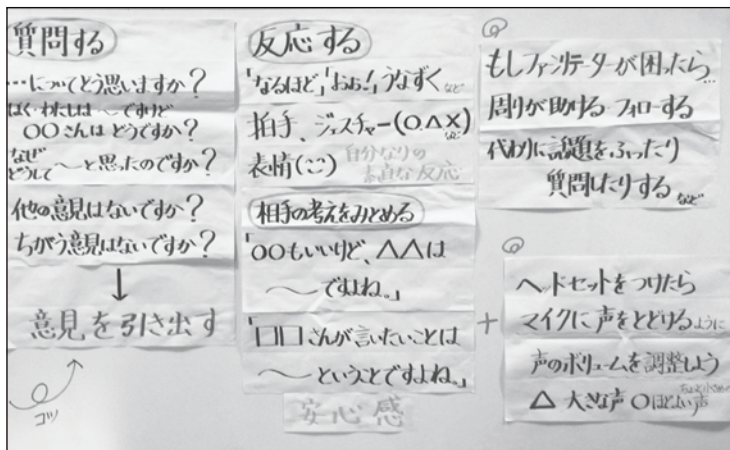


図3 児童が見付けた話し合いのコツ

(イ) 第1回授業実践の結果と考察

振り返りの記述及びループリックによる自己評価から検証を行った。振り返りの中で、多くの児童が話し合いの停滞への不安を記述した。アンケートの自由記述でも、「どうしてもシーンとなってしまうときがある」という気付きを書いていた。これらのことから、児童は話し合いの停滞に対して不安を感じていることが分かった。その要因を考察する。

表4 ファシリテーター力に関する児童の振り返りの記述

ファシリテーター力①「話し合いの進め方の見通しをもつ」 (記述なし)
ファシリテーター力②「相手の意見を最後まで聞き、反応する」
<ul style="list-style-type: none"> ・反応は1回目よりもできた。 ・相づちをうつなど、反応がしっかりできた。 ・反応したりみとめたりすることができた。 ・ループリックの②の反応では「師匠」になった。 ・みんなの意見に反応ができた。
ファシリテーター力③「相手の発言を引き出す」
<ul style="list-style-type: none"> ・友達を指名して意見を引き出そうとした。 ・もっと意見を引き出せるようにしたい。 ・友達から意見を引き出せた。 ・意見が出ていなかったら例をあげた。 ・話題をふること（～についてどう思う？）ができた。
ファシリテーター力④「相手への配慮や気配りをする」
<ul style="list-style-type: none"> ・困っている友達をたくさん助けた。 ・友達が困っていたら「次は質問する？」とか言いたい。

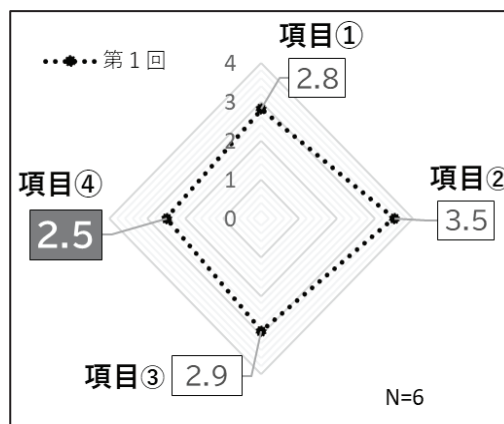


図4 ファシリテーター力に関する自己評価の平均値

a 「見通し」をもたせる手立ての不足

振り返りの記述では、表4に示すとおり、ファシリテーター力①「話し合いの進め方の見通しをもつ」に関する記述が全く見られなかった。このことから、手立てアの「見通し」において、話し合いの目的やゴール、進め方を意識して話し合いをする力を育むための工夫が足りなかったのではないかと考える。

b 「振り返り」を行う手立ての不足

ループリックによる自己評価では、4段階を点数化（4点～1点）して平均値を出すと、ファシリテーター力④「相手への配慮や気配りをする」が一番低かった（図4）。アンケートにも「友達に声をかけることがむずかしい」という記述があった。このこと

から、児童は友達への声のかけ方や配慮の仕方を理解していないのではないかと感じた。要因として、手立てアの「振り返り」において、相手への配慮や気配りに関する話合いのこつを児童間で共有するといった工夫が十分ではなかったのではないかと考える。

c **フォロワーに必要な力への気付き**

ファシリテーターだけでなく、フォロワーにも必要な力（以下「フォロワー力」という。）があるということに児童は気付き、「ファシリテーターが困ったら助ける」という話合いのこつが出た。これはファシリテーターとして話合いが停滞してしまった体験やファシリテーターの友達が困惑している状況に直面したことから、ファシリテーターだけに頼るのではなく、フォロワーとして話合いを展開する必要性を児童が感じたことが理由だと推察される。

(ウ) **第2回授業実践に向けて**

a **「見通し」の充実を図るための工夫**

ファシリテーター力①「話合いの進め方の見通しをもつ」の向上のため、表5に示す工夫を行うこととした。

表5 手立てア「見通し」の充実を図るための工夫

<p>【イメージ図による話合いのこつの確認】 児童から出た話合いのこつをイメージ図にして分かりやすくすることで、原籍校・相手校児童ともに話合いのこつを活用できるようにする。</p>
<p>【話合いの目的・ゴール・進行計画の共通理解】 議題や進行計画を児童と共に考え、相手校と共有を図ることで、児童が活動の見通しをもつことができるようにする。</p>
<p>【話合いのイメージをもつためのシミュレーション】 児童がファシリテーターとして「考えを広げる話合い」と「考えをまとめる話合い」についてそれぞれのシミュレーションを行うことで、相手校との遠隔での話合いの具体的なイメージをもつことができるようにする。</p>
<p>【話合いの目的・ゴール・進行計画の可視化】 板書やワークシート、大型提示装置に話合いの目的・ゴール・進行計画を提示し、常時確認できるようにすることで、ファシリテーターを中心に話合いを展開できるようにする。</p>
<p>【ルーブリックによるめざす指標の確認】 実践前にルーブリック各項目のめざす指標を確認する活動を行うことで、児童が具体的な到達イメージをもち、意欲的に話合いに取り組むことができるようにする。</p>

b **「振り返り」の充実を図るための工夫**

ファシリテーター力④「相手への配慮や気配りをする」の向上のため、表6に示す工夫を行うこととした。

表6 手立てア「振り返り」の充実を図るための工夫

<p>【話合いを展開する力のメタ認知】 第1回授業実践の話合いの動画を視聴し、話合いを文字に起こした資料を読むことで、客観的に自分たちの話合いの様子を確認し、自身や友達の話合いのよさや課題について知ることができるようにする。</p>
<p>【原籍校・相手校児童との振り返りの内容の共有】 話合い後の振り返りを原籍校と相手校児童が一緒にしたり、振り返りの記述内容を共有したりすることで、現段階での互いの問題点や問題解決につながる話合いの新しいこつを発見できるようにする。</p>
<p>【原籍校・相手校児童互いの話合いのよさの認め合い】 互いによさを認め合う場を設け、児童が安心して発言できる雰囲気づくりをすることで、児童が自信をもって自分たちで話合いを展開することができるようにする。</p>
<p>【話合いにおける新しいこつの発見・追加】 相手への配慮や気配りに関する発言等に注目するように声かけを行うことで、話合いをよりよく進めていくための方法やこつを見付けることができるようにする。</p>

c. フォロワー力の向上を図るための工夫

児童の実態を踏まえて、フォロワー力を表7に示す二つに整理した。ファシリテーターはフォロワーの意見を引き出し、まとめる役割である。フォロワーの意見や質問があることで話し合いを展開することができる。つまり、フォロワー力を育むことは、主体的に話し合いを展開する力の育成につながる考えた。また、フォロワー力についてもファシリテーター力と同様にルーブリックを作成することで、話し合いの展開に寄与すると考え、表8に示すフォロワー用のルーブリックを作成した。なお、ルーブリックの項目①②はフォロワー力①②に対応する。

表7 フォロワー力

① 自分から意見を言ったり、質問したりする
② ファシリテーターに協力する

表8 ルーブリック（フォロワー用）

	① 自分から意見を言ったり、質問して友達の意見をくわしく知ろうとしたりしている	② ファシリテーターに協力している
師匠	友達の意見を受け入れながら自分から意見を言ったり、質問して友達の意見をくわしく知ろうとしたりしている。	ファシリテーターの進行に協力し、ファシリテーターが困ったら代わりにファシリテーターとなって話し合いの進行のサポートをしている。
達人	自分からたくさん意見を言ったり、質問したりしている。	ファシリテーターの進行に協力し、自分から発言や質問をしたりして話し合いを活発にしている。
修業中	自分から意見を言ったり、少し質問をしたりしている。	ファシリテーターの進行に沿って発言や質問をしている。
初心者	自分から意見を言ったり、質問したりしていない。(他の人に言われて意見を言ったり質問したりしている。)	ファシリテーターの進行に協力することを意識していない。

イ 第2回授業実践

第2回授業実践は美祢市立秋吉小学校（以下「秋吉小」という。）5年生9人と国語科の学習を遠隔合同授業で行った（表9）。

表9 第2回授業実践の概要 ※2・5・7時間目が遠隔合同授業（表中網掛け部分） 朝…朝学習

5年国語科 たがいの立場を明確にして、話し合おう 「よりよい学校生活のために」 議題「草炎太鼓（秋吉小）・石城太鼓（塩田小）のよさを広めるために何ができるか」		
時	主な活動内容	手立てアの充実を図るための工夫
1	これまでの話し合いの振り返り	<ul style="list-style-type: none"> 話し合いを展開する力のメタ認知 話し合いにおける新しいこつの発見・追加 学級児童互いの話し合いのよさの認め合い
朝	秋吉小と自己紹介	
2	関係づくりのための話し合い	<ul style="list-style-type: none"> イメージ図による話し合いのこつの確認 ルーブリックによるめざす指標の確認
朝	議題についての話し合い	<ul style="list-style-type: none"> 話し合いの目的・ゴール・進行計画の共通理解
3	解決方法と理由を考えるための話し合い	<ul style="list-style-type: none"> 話し合いの目的・ゴール・進行計画の共通理解
4	話し合いのシミュレーション	<ul style="list-style-type: none"> 話し合いのイメージをもつためのシミュレーション 話し合いの目的・ゴール・進行計画の可視化 ルーブリックによるめざす指標の確認
5	考えを広げ、まとめる話し合い	<ul style="list-style-type: none"> 話し合いの目的・ゴール・進行計画の可視化 ルーブリックによるめざす指標の確認 原籍校・相手校児童との振り返りの内容の共有
6	解決方法を決めるための話し合い	<ul style="list-style-type: none"> 原籍校・相手校児童との振り返りの内容の共有
7	解決方法の共有と振り返り	<ul style="list-style-type: none"> 原籍校・相手校児童との振り返りの内容の共有 原籍校・相手校児童互いの話し合いのよさの認め合い

互いの良好な関係づくりのため、単元の導入時に遠隔での自己紹介(図5)を、第2時にアイスブレイクや楽しい話合いを行った。



図5 両校児童が遠隔で自己紹介をしている様子

(7) 第2回授業実践の実際

a 児童にとって自分事となる議題設定

秋吉小と原籍校は地域・学校で太鼓に取り組んでいるという共通点があり、両校でオンライン太鼓交流会を実施するなどしている。児童にとって身近な太鼓に関する議題を設定することで、自分事として主体的に話合いを展開できると考えた。両校とも児童数が減少していることから、将来的に地域の太鼓の継承者の減少が考えられる。そこで、この問題の解決につながる議題として「草炎太鼓・石城太鼓のよさを広めるために何ができるか」を設定した。

b 見通しー実践ー振り返りのサイクルの充実

(a) 「見通し」の充実を図る工夫の具体

第2時は両校児童の関係づくりだけでなく、話合いのこつやファシリテーター及びフォロワーの役割について共有した(図6)。第3時では、議題、話合いの目的、ゴール及び進行計画を塩田小の児童同士で考えた上で、秋吉小と共有することで、見通しをもって話合いができるようにした。



図6 秋吉小児童と話合いのこつを共有している様子

第4時の話合いのシミュレーションでは、進行計画をグループで確認し合うようにすることで、見通しをもって話合いを展開できるようにした。また、ホワイトボードと付箋を使って両校児童の意見を事前に可視化し、共有することで、シミュレーションの段階で、質問を考えたり、進行手順を考えたりすることができるようにした。進行時に使う表現をメモし、同じグループの友達と共有するなど、意欲的に活動する児童の様子も見られた(図7)。



図7 進行メモを活用する児童

第5時の、考えを広げまとめる話し合いでは、話し合いの目的・ゴール・進行計画を黒板、ワークシート及び大型提示装置に提示し、可視化することで、児童が常に確認しながら話し合いをできるようにした（図8）。

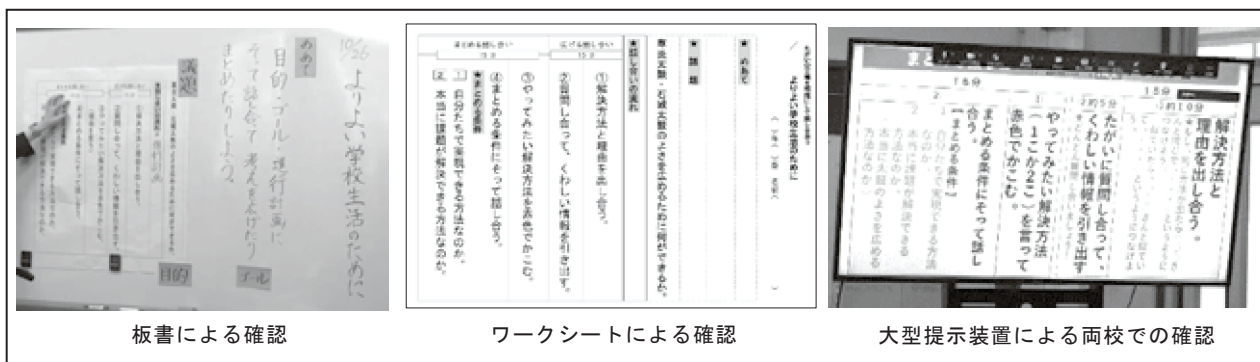


図8 話し合いの目的・ゴール・進行計画の可視化

(b) 「振り返り」の充実を図る工夫の具体（第1時）

第1時では、第1回授業実践の話し合いの動画（図9）と文字起こし資料（図10）により、児童が自分たちの話し合いの様子や言動を客観的に観察することで、話し合いの新しいこつや現時点での自分たちの課題を確認できた。また、友達の発言や行動から、よりよい話し合いの進め方について考えるとともに、文字起こし資料を活用することで、児童は自分たちの発言内容に改めて着目することができた。さらに、児童が話し合いの動画視聴において見逃していた話し合いにおける新しいこつと課題を見付けることにつながった。



図9 動画を視聴する児童の様子

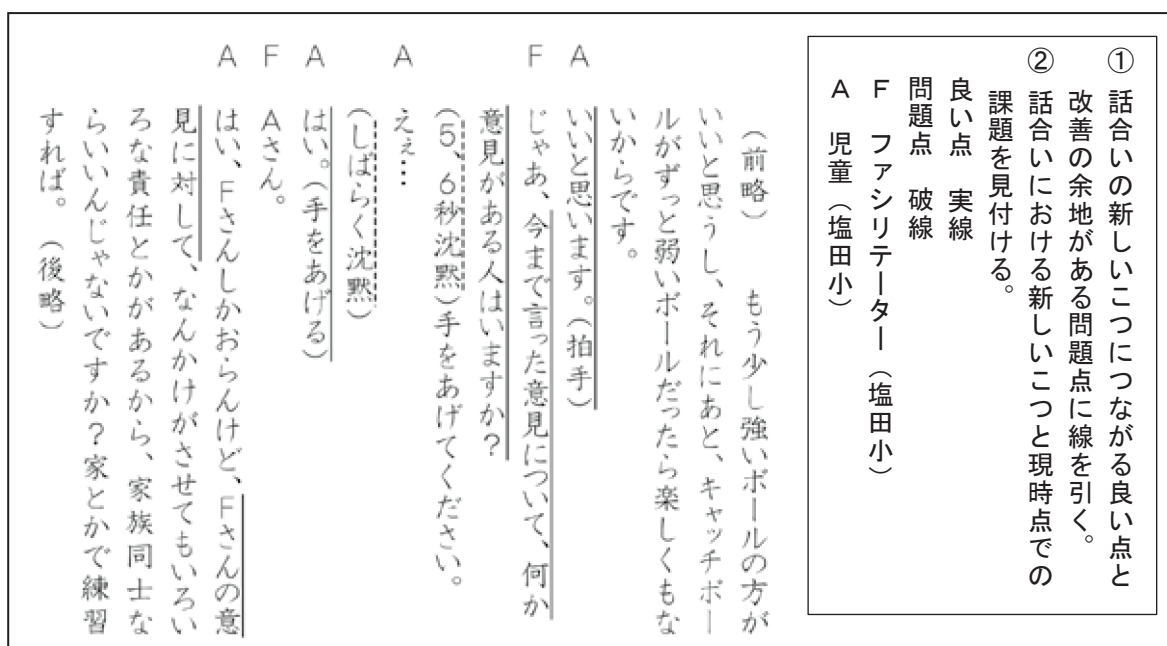


図10 児童が実際に線を引き確認した文字起こし資料の一部編集

(c) 「振り返り」の充実を図る工夫の具体（第5時）

第5時は表10に示す流れに沿って授業を行った。秋吉小児童が遠隔合同授業での話し合いに慣れていないため、考えを広げる話し合いで停滞する場面があった。振り返りにおいて、原籍校児童が秋吉小児童に対して発言できるように助言するといった配慮や気配りをしたことにより、安心してまとめる話し合いに参加することができている秋吉小児童の様子が見られた（図11）。

表10 第5時の授業の流れ ※表中の枠が示す内容 見通し — 実践 — 振り返り

学習活動・内容	教師の支援
<p>1 話し合いの見通しをもつ。 (オフライン)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童同士による話し合いの目的・ゴール・進行計画の確認 <p style="text-align: center;">目的やゴール、進行計画にそって話し合い、考えを広げたりまとめたりしよう。</p>	<p>○児童同士で本時の話し合いの目的・ゴール・進行を確かめることで、見通しをもつことができるようにする。</p>
<p>2 解決方法に関する互いの考えについて質問したり、答えたりする話し合いをする。 (オンライン)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「解決方法」「理由」の意見交流 ・互いに質問して具体的な考えを交流 ・「考えを広げる」話し合いの振り返り <p>Zoomのブレイクアウトルーム…3グループ グループ編成…塩田小2人 秋吉小3人 塩田小児童がファシリテーターを務める</p>	<p>○掲示物やプリント等で常時、進行計画や話し合いのこつを児童が確認することで、話し合いを計画的に行うことができるようにする。</p> <p>○「考えを広げる」話し合いの振り返りを行うことで、児童に現段階での課題に気付くよう促し、次の「まとめる話し合い」では、その課題を意識して話し合いを展開できるようにする。</p>
<p>3 条件に沿って考えをまとめる話し合いをする。 (オンライン)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・まとめる条件 ・意見の整理 	<p>○条件に沿って話し合うようにすることで、出し合った意見を整理しやすいようにする。</p>
<p>4 話し合いの振り返りをする。 (オフライン)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ファシリテーター、フォロワーのよさ ・ループリックによる自己評価 ・次の話し合いでの課題 	<p>○児童が前向きに振り返ることで、次の活動への意欲を高めることができるようにする。</p> <p>○個々の振り返りを学級で共有することで、次の話し合いに生かすことができるようにする。</p>

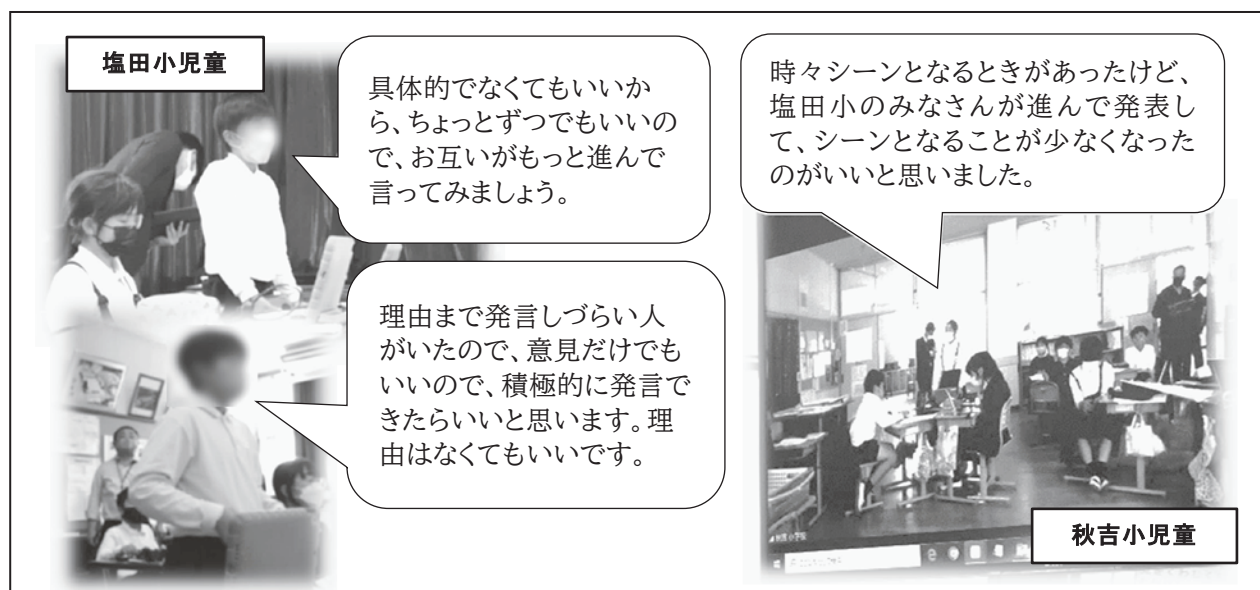


図11 考えを広げる話し合い後に両校児童が振り返りをしている様子

(d) 「振り返り」の充実を図る工夫の具体（第7時）

第7時は表11に示す流れに沿って授業を行った。ファシリテーターとしての自信、またフォロワーとしての自信をもたせるために、話し合いにおける原籍校と秋吉小児童の互いのよさを伝え合う活動を行った。

表11 第7時の授業の流れ ※ 表中の枠が示す内容 見通し — 実践 — 振り返り

学習活動・内容	教師の支援
1 本時の流れを確認する。 (オフライン)	○児童同士で本時の流れをすることで、見通しをもって話し合い活動ができるようにする。
これまでの活動を振り返り、話し合いのこつや次への課題を見つけよう。	
2 各学級で決めた解決方法を発表する。 (活動2～5までオンライン)	○事前に児童が発表を練習することで、自信をもって発表ができるようにする。
3 これまでの話し合いの振り返りをする。 ・互いの良かったところや見習いたいところ ・これからの課題	○両校とも事前に振り返りをしておくことで、相手に伝わりやすい発表ができるようにする。
4 3の活動で出た「話し合いのこつ」や「課題」を意識して、 Zoomのブレイクアウトルームで楽しい話題の話し合いをする。 Zoomのブレイクアウトルーム…3グループ編成…塩田小2人 秋吉小3人 塩田小児童がファシリテーターを務める	○良かったところは更に伸ばすこと、話し合いの課題を解決しようすることを意識することで、自分たちで意欲的に話し合いを展開できるようにする。 ○楽しみながら話し合いを展開することで、遠隔での話し合いの停滞への不安を少なくするようにする。
5 11月22日のオンライン太鼓交流会に向けて応援メッセージを伝え合う。	○応援メッセージを伝え合うことで、期待をもって太鼓交流会に向かうことができるようにする。
6 各学級で話し合いの振り返りをする。 (オフライン)	○児童が前向きに振り返ることで、これからの話し合い活動への意欲を更に高めることができるようにする。

秋吉小児童からよさを認めてもらえた（表12）ことで原籍校児童は喜び、安心したという感想を述べていた。また、改めて話し合いのこつの重要性を再確認することができた。単元の最後では、「夜の学校で挑戦するとしたら、お化け屋敷とキャンプのどちらを選ぶか」という楽しい話し合いを行い、両校児童共に自信をもって、意欲的に話し合いを展開する様子が見られた。

表12 秋吉小児童から見た原籍校児童のよさの一部 ※ 網掛け部分が相手への配慮や気配りに関するよさ

- ・塩田小のみなさんがファシリテーターとして、ぼくたちを引っ張ってくれたり、言えない人がいないように一人ひとり言えるようにぼくたちに質問してくれたり、意見を言わせてくれたのすごいなと思いました。
- ・みんな、よく周りの人の事を思って、発言が止まったりしたときとか、アドバイスをくれて気持ちを落ち着かせてくれて、すごいなと思いました。

(イ) 第2回授業実践の結果と考察

授業実践後に、ループリックによる自己評価を基に検証を行った。また、アンケート結果及び振り返りの検証は、話し合いの停滞に特に不安を感じていた児童一人を抽出した。さらに、他の児童の振り返りの記述も検証材料とした。

a 「見通し」の充実を図るための工夫による児童の変容

ループリックの自己評価4段階を点数化（4点～1点）し、第1回と第2回の平均値を比較すると、全ての項目において上昇が見られた（図12）。特に、ファシリテーター力①「話し合いの進め方の見通しをもつ」に対応した項目①については、上昇幅が1.1点と

なり、最も大きく改善した。また、**図13**の意識の変化でも、ファシリテーター力①に関するアンケート項目の向上が見られた。**表13**の記述からは、時間配分を考慮した進行の大切さに気付いた記述や問題解決に向け、話し合いのこつを意識によるファシリテーター力の高まりが見られた。他の児童の振り返りからも、目的やゴール、進行計画を確認しながら話し合いができるようになったという記述やまとめ方を考えながら話し合いを進めようとしたという記述が見られた。これらのことから、ファシリテーター力①「話し合いの進め方の見通しをもつ」が高まったと考える。

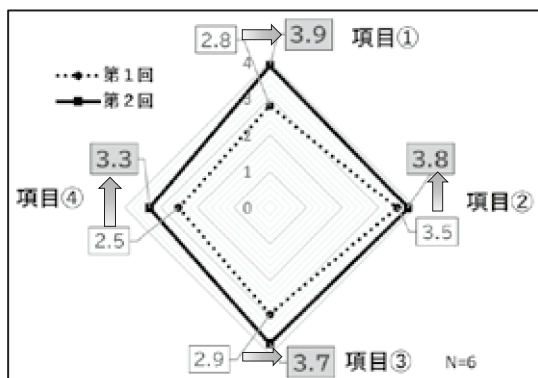


図12 ファシリテーター力に関する自己評価の平均値の比較

アンケート項目	あてはまる	だいたいあてはまる	あまりあてはまらない	あてはまらない
ファシリテーター力①に関する項目	4	3	2	1
ファシリテーター力④に関する項目	4	3	2	1
話し合いの意識態度に関する項目	4	3	2	1

図13 意識の変化 ※1回目△→2回目○

表13 振り返りの記述

・ ぼくはまとめに入る前に時間がなくなってしまうので、これからは時間配分のことも考えながら話し合うようにしていきたいです。
 ・ 一人ひとりがファシリテーターとして、フォロワーとして今までで一番良い話し合いになりました。ぼくも課題解決に向けて、今まで勉強した話し合いのこつを意識してファシリテーター力がとても上がったと思います。
 ・ なかなか発言できない友達がいたら、発言しやすいような工夫をしたり、指名したりすることが自然にできるようになりました。

※ _____ ファシリテーター力①に関する記述 _____ ファシリテーター力④に関する記述

b 「振り返り」の充実を図るための工夫による児童の変容

図12のファシリテーター力④「相手への配慮や気配りをする」に関する項目④については0.8点の上昇が見られた。また、図13の意識の変化では、ファシリテーター力④に関する項目の向上が見られた。さらに、表13の振り返りでは、気配りが自然とできるようになったことの記述が見られた。第1回授業実践後に「友達に声をかけることが難しい」と記述していた児童は、フォロワーを配慮しながら進行できたことへの喜びや、これからは優しく声を掛けたいという意欲を、振り返りで記述していた。これらのことから、ファシリテーター力④「相手への配慮や気配りをする」が高まったと考える。

c フォロワー力の向上を図るための工夫による児童の変容

ループリックの自己評価を点数化（4点～1点）し、平均値を比較すると、両項目とも上昇が見られた（図14）。また、フォロワー力に関する児童全員の振り返り（表14）に、フォロワーとして進んで発言したことやファシリテーターへの協力に関する記述が見られた。フォロワーである秋吉小児童のよさを共有したこともフォロワー力

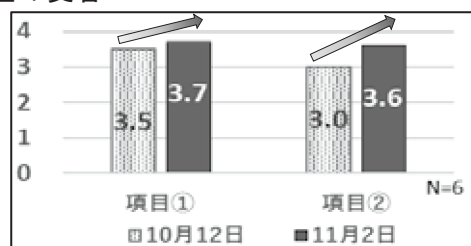


図14 フォロワー力に関する自己評価の平均値の比較

の向上につながったことが記述から考えられる。これらのことから、フォロワー力が高まったと考える。

以上 a～c を踏まえると、児童にとって自分事となる話合いの議題を適切に設定し、ループリックによる自己評価から児童の意欲を喚起させ、「見通し」と「振り返り」を充実するために手立てを工夫することは、児童のファシリテーター力とフォロワー力を高め、話合いの停滞を減少させるとともに、主体的に話合いを展開しようとする意欲や態度を向上させる上で有効であったと考える。

表14 フォロワー力に関する児童の振り返りの記述（一部）

・フォロワーとしてファシリテーターをしっかりフォローできました。僕がファシリテーターのとき、みんなが進んで意見を言ってとても助かりました。
・いつもよりせっせよく的に手をあげて発表できた。ファシリテーターさんが困ったら「こうやったら？」とかいろいろサポートできた。
・秋吉小のAさんがファシリテーターみたいに話してくれて、話合いがシーンとならなかった。質問もせっせよく的に言って、話合いがもり上がった。

3 研究のまとめと今後の課題

(1) 研究のまとめ

2校との遠隔合同授業における話合い活動において、児童がファシリテーターを務める活動を取り入れることは、児童の話合いを展開する力を育むとともに、主体的に話合いを展開しようとする意欲や態度を身に付けさせる上で有効であった。また、ファシリテーターの経験により、フォロワーの大切さに気付き、ファシリテーター又はフォロワーとして主体的に話合いを展開しようとする児童の意欲や態度に明らかな変容が見られた。

(2) 今後の課題

ファシリテーターとフォロワーとの対話は活性化されたが、フォロワー同士の対話を活性化させる必要を感じた。つまり、ファシリテーターとして、フォロワーの意見に対する発言を促したり、フォロワーが別のフォロワーに質問するように促したりするといった、「フォロワー同士の対話を促す力」を向上させることが必要だということが明らかになった。今後は、普段の学習においても児童がファシリテーターの役割を務めるといった話合い活動の工夫・改善・充実を進めていきたい。また、原籍校の学び方ガイドブック「塩田っ子の学び」を児童と共に改良して積極的に活用し、児童の主体的に話合いを展開していく力の更なる向上につなげていきたい。

【引用文献】

- * 1 中央教育審議会、『「令和の日本型学校教育」の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～(答申)』, 2021, p. 84
- * 2 北川雅浩, 「小学校中学年段階での話し合いを展開する力の育成に関する検討」, 熊本大学教育学部紀要第70号, 2021, p. 1

【参考文献】

- ・文部科学省, 『小学校学習指導要領解説国語編』, 東洋館出版社, 2018
- ・文部科学省, 『遠隔教育システム活用ガイドブック第3版』, 教育総合研究所, 2021
- ・やまぐち総合教育支援センター, 『平成30年度版 複式学級の授業づくりガイド』, 2018
- ・香月正登・上山伸幸・国語探究の会、長崎伸仁監修『文字化資料・振り返り活動でつくる小学校国語科「話し合い」の授業』, 明治図書, 2018
- ・ちょんせいこ『13歳からのファシリテーション』, メイツユニバーサルコンテンツ, 2022
- ・北川雅浩, 「話し合いを展開する力の活用を促す指導の要件の検討」, 熊本大学教育実践研究第39号, 2022
- ・成家雅史, 「高学年児童の協同学習におけるファシリテータ設定の検討」, 東京学芸大学国語教育学会研究紀要, 13巻, 2017